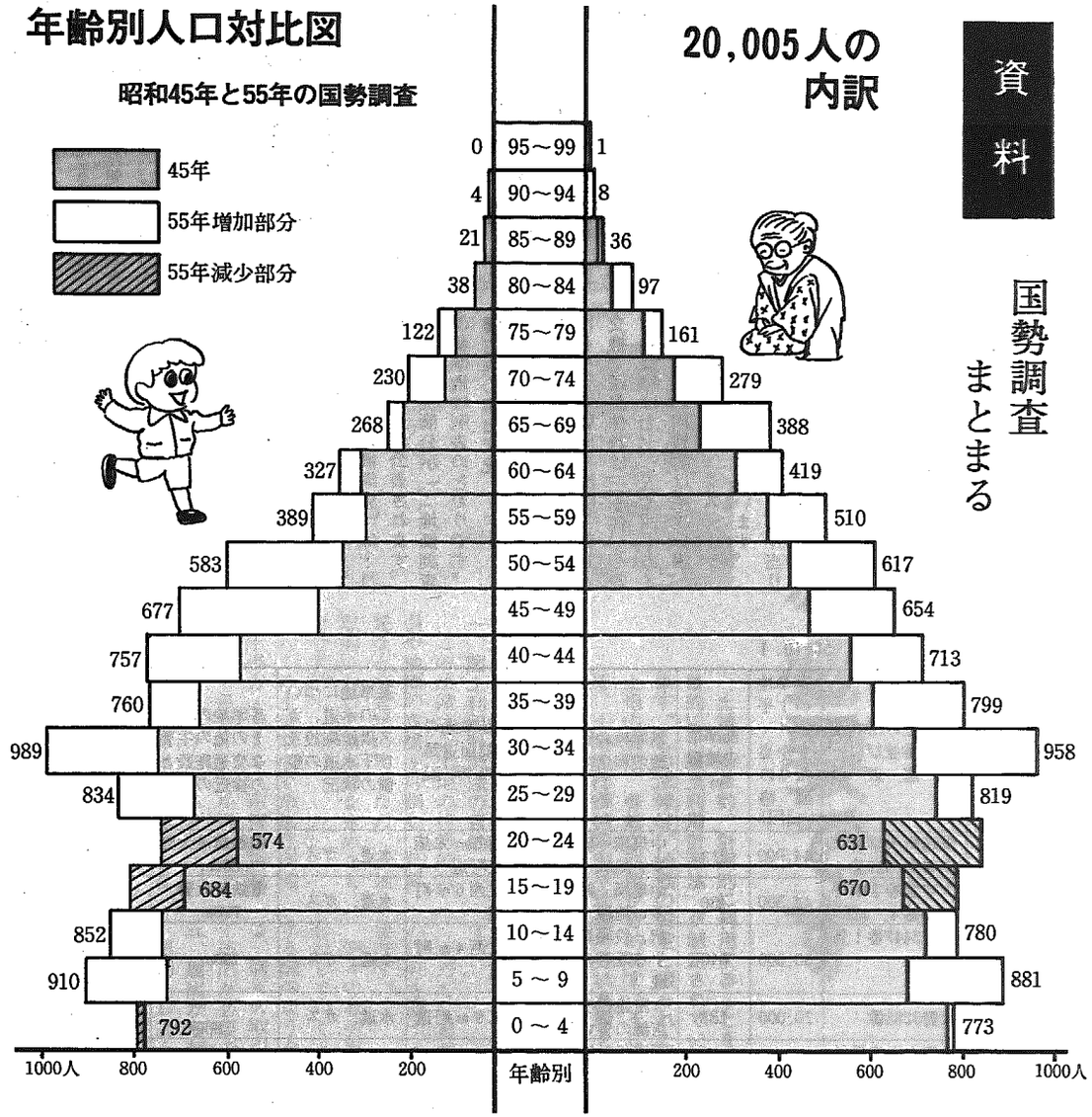
資料

国勢調査まとまる

20,005人の内訳

年齢別人口対比図

昭和45年と55年の国勢調査



※ 数字は昭和55年国勢調査の年代別人口数

昭和五十五年十月一日実施された国勢調査結果がまとまりましたのでお知らせします。

地域別人口などについては、町独自で行った集計結果を、広報第一七三号（昭和五十五年十一月十五日発行）でお知らせしました。

前回五十年に比較しますと、人口では千四百十三人、世帯六百二十六、それぞれ七・六％、四・一％増の大幅な伸びを示し、県下では豊栄市の一一・四％増をトップに亀田町、田上町、新潟市についで五番目となっています。

また、過去十年間を比較しますと（グラフ1参照）人口では三千百八十七人増となっており、一番大幅な増加をみせている年代は七十～七十四歳、ついで四十五～四九歳、逆に減少している年代は十五～二十四歳、0～四歳となっており、高齢化社会への傾向は、本町でも如実に現われています。

産業別従業者数では、建設業、金融、保険業、公務、サービス業卸、小売業などが増加し、第一次産業の農業が大幅に減少しています。

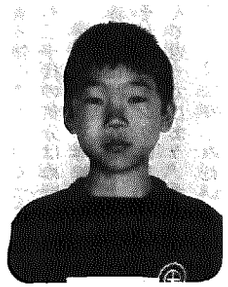
本町は今後さらに、流通センターの建設などの影響や、新潟市の衛星都市として住宅などの建設が進み、まだまだ人口の増加は止まりそうもないのが現状のようです。

〔明るい家庭づくり作文〕①

佳作

いつも明るいよい返事をきめて

大野小学校三年四組　笹川弘康



新潟県が今年一～二月に行った「明るい家庭づくり」の作文募集で、本町から三人の児童生徒がみごとに入選しました。

今号では、青少年育成会議賞の佳作に入選した、大野小学校三年生笹川弘康君の作文を紹介します。

次号は奨励賞の畠山文さん、（大野小四年生）同じく奨励賞の田辺陽子さんの作文を六月一月号で紹介します。

さて、毎月第三日曜日は「家庭の日」です。家族全員で一日を楽しく過ごしましょう。

ぼくの家は、お父さん、お母さん、おとうとぼくの四人かぞくです。このまえ先生に「みんな、家の人とそうだんして、明るいかていの何かよいひょうごを、考えてきなさい」といわれたのです。その時、かぞくみんなでいろいろと話し合いをしました。するとお父さんが「このごろの子どもは、へんじがわるいからなあ」というのです。ぼくもそう思いました。だってわるいことをした時すぐに「ごめんなさい」といえばいいのになかなかいえないのです。でも心の中では、ほんとうにわるいなあと思っているのです。それを口に出していうことは、すごくゆうきのいることだと思います。それにいつもお母さんに、「ちゃんとくつはそろえてぬぐんだよ」といわれます。その時もそうです。やっぱりすぐに、「はい」といえばいいのに、どうしてもだまってしまいます。

それにもう一ついわれたことは、お父さんやお母さんに、口ごたえをするとき、それに先生にけんけんをいうときもそうです。いいたいことは、はっきりいってもいいが、自分より年上の人にいう時は、ことばに気をつけて話すようにといわれました。

ぼくもそうだけれど、みんなもそうです。やっぱり友だちみたいに話をしてしまう。そういう時は、どうしたらいいのかなあ。ていねいなことばづかいというのをならったけど、なかなかそのとおりには、話せないなあ。ぼくだけそうなのだろうかふしぎです。話し方には話す人それぞれに、どういうふうにこたえたらいいのか、ほんとうにむずかしいものだと思います。だからお父さんたちは「さいしょからむずかしいことはできないから、へんじがじょうずに口からしぜんに出ることがだいじだ」というのです。

朝は「おはよう」。

夜は「おやすみなさい」とか人からほめてもらった時の「ありがとう」や、まちがった時の「ごめんなさい」などです。

それができるようになったらほんとうにきれいな人に見えるし、その人がいるだけで明るくなるというのです。ぼくも、がんばって少しでもちゃんとやることができたら、えらいと思います。かんたんそうだけど、とってもむずかしいことだと思うのです。だからかんたんにはいかないけど、がんばってやってみようと思います。

「いつも明るいよいへんじ」これをみんなでやってみることにしたのです。きれいで明るい人に少しでもなれるように、がんばってやってみようと思います。

▶今年も二万町民の健康のために

四月十二日(月)、中央公民館で黒埼町保健委員会の総会がありました。約七十人の保健委員のかたが出席され、昨年度の決算報告、今年度の事業計画、予算が承認されました。

また、永年保健委員を務められた笹川シズさん（興野）、大矢ミネさん（新田町）、宗村節さん（鳥原新田）、鷲尾忍さん（蓮方団地）に感謝状が贈られました。

その後、巻町青少年研修センターの荒木快英氏の「心と健康」と題する記念講演がありました。